

# 本学学生を中心とした「きょうだい会」の設立

## 本事業展開に至る経緯

- 「きょうだい」とは、病気や障害のある兄弟姉妹がいる方を指します。
- 対人援助職を志望する学生の動機づけの一つには、「きょうだい」を含む家族の存在が影響を与えている場合が少なくありません。かねてより社会福祉学部では、1割程度の学生がこれに該当しているという実感がありました。
- 「きょうだい」が抱える特有の悩みや生きづらさは、特にキャリア支援が開始される3年次に強く自覚されるようになってきてきました。しかし、こうしたことを話せる相手が今までに不在であったことから、悩みを独りで抱えがちであることわかってきました。

⇒「きょうだい」である本学学生同士が安心して悩みを語り合えるような場をつくることを目標に、本事業を展開することにしました。



## 2022年度の行動目標

- 地域の当事者団体等と連携しながら、「きょうだい会」に関する基本的な知識や情報を学生と共に学ぶこと
- 本学学生を中心とした「きょうだい会」を設立すること

## 実施① 本学学生のみを対象とした「きょうだい」に関する講演会の開催

- テーマ:「〇〇さんのお姉さんとしてではなく、自分の人生を生きる」
- 講師:後藤晴香氏(地域生活支援の家 あっとほ一む、本学社会福祉学部2019年度卒業)
- 開催日時・参加者数:2022年9月10日(土)10:00~12:00、3名
- 内容:  
幼稚園から小中学校、高校、大学、そして社会人にいたる各ライフステージにおける障害のある兄弟や家族との関係、その時々抱えていた気持ちなどを対談形式で率直に語っていただきました。なかでも大学生の時に、ご兄弟が利用されていた事業所で、年上のきょうだい数人と話す機会があり、ごく自然にご兄弟のことを話せたことが非常に貴重な体験であったということでした。



## 実施② 本学学生及び本事業の協力者を対象とした「きょうだい」に関する講演会の開催

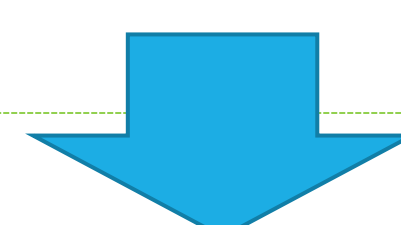
- テーマ:「病気や障害がある方の『きょうだい』への支援の必要性とその実例」
- 講師:沖侑香里氏(静岡きょうだい会 代表)
- 開催日時・参加者数:2022年10月29日(土)10:00~12:00、18名
- 内容:  
「きょうだい」が抱える悩みについては、その存在が主たる介助者や親の陰に隠れて見えにくいために、これまでに見過ごされることが多く「きょうだい」は孤立しがちになるため、まずは、「きょうだい」が抱く「モヤモヤした気持ち」の根底には、不安、孤立感、罪悪感、プレッシャーといった複雑な感情があることを説明していただきました。そして、「きょうだい」は病気や障害のある兄弟と過ごす時間が親御さんよりも圧倒的に長くなるなど、その当事者としての経験を「時間軸」で捉えると、親の経験とは大きく異なるものです。したがって、周囲にいる者は、親と「きょうだい」の経験は切り離して「きょうだい」と接することが大切になります。  
次にライフステージごとで「きょうだい」が抱えやすい悩みについて、ご自身の体験も交えながら詳細に説明していただきました。「きょうだい」が抱える悩みはライフステージごとに変化し、一生涯続く可能性があるため、周囲にいる者は長期的な視点をもってかかわることが必要です。  
最後は、対象を大人と子どもに大別される「きょうだい会」に関する社会資源を説明していただきました。全国の活動事例として「NPO法人しぶたね」や「きょうだい会SHAMS」、静岡こども病院等における院内の活動、大学生によるサークルなどが紹介され、「居場所づくり」だけが支援活動なのではなく、様々な資源を巻き込みながら、「無理せず自分たちのやりたいこと」を実現することを大切にしてほしいとのことでした。



## 参加者の感想:

・きょうだい会をイメージすると、自身の辛い体験などを打ち明けられるのを思い浮かべるが、決してそうではなく、強制されるものではないということ学びました。沖さんの「辛い時は無理に話をしなくていい。蓋をする時があってもいい。」という言葉は、すごく心に響いたし、今後の人生において、とても価値のあるものだと感じました。

・この度は貴重なお話が聞けて大変嬉しく思いました。障害児とそのきょうだいの両方を育てる身としては、どちらとも幸せな人生を歩んで欲しいと強く願っています。でも自分の身は1つで、1人にかかりきりになれないもどかしさに常に悩んでいました。今回きょうだいとして育った沖さんの体験をお聞きして、心がグサグサと痛む瞬間がありました。でも沖さんが遅く活動をなさっていることや、具体的な支援の方法などを見せてくださったことで、我が子にも手を伸ばせは仲間や色々な選択肢があることができ、安心しました。保護者ときょうだい自身とでは障害児者を見る目線も違うことも気づきました。家族それぞれがお互いの人生をよりよく生きることができるよう、これからもたくさん考えていきたいと思います。静岡きょうだい会の今後の活動にも注目していきたいと思います。応援しています。



## 結果・今後の課題

- 2つの講演会での学びを踏まえ、当初、本事業の目標としていた「きょうだい会の設立」を目的としたサポートグループの形成は、教員主導で性急に行われるのではなく、在学生による自発的な活動への関与が生まれることを待ちながら、時間をかけて検討することが必要であるとの結論にいたりました。また、きょうだい支援は、「居場所をつくること」だけが目標となるわけではないため、本学学生やきょうだい支援を実施している地域にある社会資源の声に耳を傾けながら、本学が担うべき役割を検討することにしました。
- 今年度の活動を通して、主として小学生以下の「きょうだい」を対象とした支援を静岡県西部地区で展開されている「遠州こどもきょうだい会ミントモ」の代表者との交流がはじまり、先方より「シブリングサポーターの養成」を大学と共催したいという申し出をいただきました。「シブリングサポーター」とは、病気や障がいのある子どもの「きょうだい(sibling)」の応援団を意味します。次年度は、その養成講座の開催を検討したいと考えています。

## 《 プロジェクトメンバー 》

代表者	福田俊子(社会福祉学部社会福祉学科)		
協力者	泉谷朋子(社会福祉学部社会福祉学科)	小出隆司・山口智子(浜松市浜松手をつなぐ育成会)	
	伊藤さなえ(浜松地区肢体不自由児親の会)	後藤晴香(あっとほ一む)	梅田彩乃、丸山華奈(社会福祉学部学生)
連携機関	浜松市浜松手をつなぐ育成会		